

じどう

児童のみなさんへ

～なぜ、マスクをつけなければならないの？～

3月2日から長い間、学校がお休みになりました。コロナウイルスという病原菌が世界中で暴れているからです。マスクがお店から消えてなくなった日が続きました。消毒するスプレーやウエットティッシュも数がなくなりました。マスクはどこへいったの？そう叫びたくなりました。日本の小学校が全国的に臨時休校になったのは、第2次世界大戦の時と、100年前におこった「スペイン風邪」というウイルスの病気が世界中ではやった時の2回です。「スペイン風邪」時には、新聞でマスクをつけることや、手洗いをしっかりとすることが日本中でいわれました。今回の新型コロナウイルスと同じです。その時もたくさんの方がなくなりました。戦争でもたくさんの方の尊い命がなくなりました。そう、「命」を大事にしなければならないんです。だって、「命」はゲームではないから。なくなったら、もうもどってこないんですもの。マスクをするのは「命」を守るため。一番大切なことは「命」を守ることです。それがないと、何もできないんですから。お家を出る時も学校から帰る時にもマスクをしてください。外から中に入ったら必ず手洗いをしてください。自分も人も守るために。学校は共同生活をする場所です。みんなで学びあう場所です。楽しい場所です。戦争の時の小学生は食べるものがなくて、お米のぬかを団子にして食べていたそうです。戦争中で敵の飛行機が飛んでくるかもしれない中でも、学校ごとにある防空壕にひなんする訓練をしたり、運動場で野菜を育てたり、なぎなたで敵がきたら身を守る訓練をしたり、びくびくしながらお勉強をしていたそうです。そんな中でも、小学校はみんなと会えるから楽しかったと話をしてくれた人は言っていました。みんな「命」があるからこそ、そんな話もできるんですね。マスクをつけたり、手を洗うことで「命」が守られると、「スペイン風邪」の時にも、日本人たちはわかったんですね。ソーシャルディスタンスを守りましょう、人と距離をとりましょう、と言われてますが、心の距離は遠ざけたくありませんよね。ソーシャルディスタンスをとりながら、心の距離を近づけるには、どうしたらいいのか考えてみましょう。校長先生が小学生のころには、「文通」というのはやりました。お手紙を書くんです。読んでほしい人に。北海道から転校してきた時に大好きなおばさんにお手紙を書きました。年の差、50才の文通の始まりです。どんなことを書いたら喜んでくれるかな？今日楽しかったこと、これからしようと思っていること、たくさん書きました。お返事がくるのを楽しみに。10年間文通して、文通は終わりました。「命」を大切にしましょう。そして、ちくちく言葉は使わないで毎日楽しくすごしましょう。いやな言葉はぜんぶ自分にかえてくるからです。ブーメランみたいに、忘れたころにでもかえてきます。毎日を大切に。「命」を大切に。